

アズマレイジンソウ	<i>Aconitum pterocaula</i> Koidz.	絶滅危惧Ⅱ類
		キンポウゲ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が大幅に減少している。また、大部分の個体群がその再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	写真(高橋弘) 
形態の特徴	茎は曲り、上部は地に垂れて這うようになることが多く、長さ80-150cmになる多年草。根生葉は長い柄があり、腎円形、5-7中裂し、裂片はさらに浅裂する。花期は8-10月。総状花序の下部で分枝し、淡紅紫色で長さ2.5-3cmの兜形の花をつける。	
生態的特徴	林縁や林中に生える。	
分布状況	本州中北部の主として日本海側に分布する。県内では県北の南部及び県南の北部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県北及び県南のかなり広い地域にわたっているが、もともと生育個体数は少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定できないことのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良